

地図帳は「はてな？」の宝庫

教材・授業開発研究所代表 有田和正

地図にはいろいろな情報が入っています。外国旅行をする気分で見ると、知らないところだけに、想像力が大きくなり、そして、いろいろな疑問が生まれてきます。その疑問を調べてみたらどうでしょうか。新しい発見があるでしょうし、さらなる疑問が出てくるでしょう。それを追究していくなかで、子どもたちの学習意欲が高まり、自主性が培われてくるかもしれません。

1. 「赤道」は本当に赤い線がある？

東京の学校で、5年生に地図の授業をしたときのことです。「赤道より南の国へ行ったことがある人は？」と問うと、3分の1くらいの子どもが挙手しました。「赤道を飛行機で越えるとき、『今から赤道をこえます』という機内放送があったでしょう。そのとき、窓から赤道を見た人は？」と問うと、三人が挙手しました。

一人に「赤道は見えましたか？」と問うと、「まっ赤な赤道が鮮明に見えました。しかし次の瞬間、幻のごとく消えました」とユーモアたっぷりに答えたので、教室は大いにわきました。

「赤道の記念碑がある国があるんだけど、どこの国が知って



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.52

ますか？」と問うと、なんと一人、エクアドル（赤道という意味）の首都キトまで行ったことがあるというのです。

「北半球と南半球を同時にまたいできました」というのです。またも驚き、教室はわきました。

2. 「～スタン」てなんのこと？

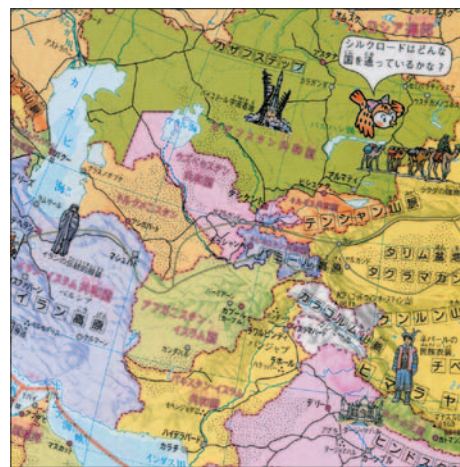
アフガニスタンで戦争が起きたとき、「～スタン」という国名が目につきました。

地図帳をみると、「～スタン」のつく国はひとつかたまりになっています。これは何かわけがあるかと調べてみました。

これはペルシャ起源の地理用語で、「国、地域」を意味するといひ、英語の「ランド」にあたる語だということです。

パキスタン（清浄な国）、アフガニスタン（アフガン人の国）、ウズベキスタン（トルコ人族長の国）、タジキスタン（タジク人の国）、トルクメニスタン（トルコ人に似た民の国）、ガザフスタン（放浪者の民の国）などと国名に採用されています。

ソ連時代はクレムリンの権力で、ウズベクやタジクのように「スタン」を強制的に省かれていました。ソ連の崩壊によって中央アジアに「スタン」語群の新興国が一挙に倍増したのです。



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.47

「スタン」の名を世に知らしめた最大の功労者は、現在の中国西部を含む中央アジアの総称トルキスタンといってよいでしょう。17世紀前後、この地域と接触をはじめたロシア人によってヨーロッパに伝えられた地名だということです。『世界地図から地名の起源を読む方法』（辻原康夫著、KAWADE夢新書）より）

3. リアス式海岸ってどういう意味？

日本の三陸海岸が「リアス式海岸」といって、海岸がのこぎりのような格好になっていることは知っていました。しかし、なぜ「のこぎり」のような格好になった海岸をリアス式というのか知りませんでした。

スペイン北西部、つまり、ポルトガルの北の地方をガリシア地方といいます。スペイン語で「入江」のことを「リア」といい、ガリシア地方のことを「入江の多い地方」といいます。

ドイツ人のリホトホーフエンという人は、このことを知っていて、ガリシア地方のようなギザギザの海岸を「リアス式」とよぶことにしたようです。1886年のことです。

1919年、アメリカの地形学者O・W・ジョンソンが

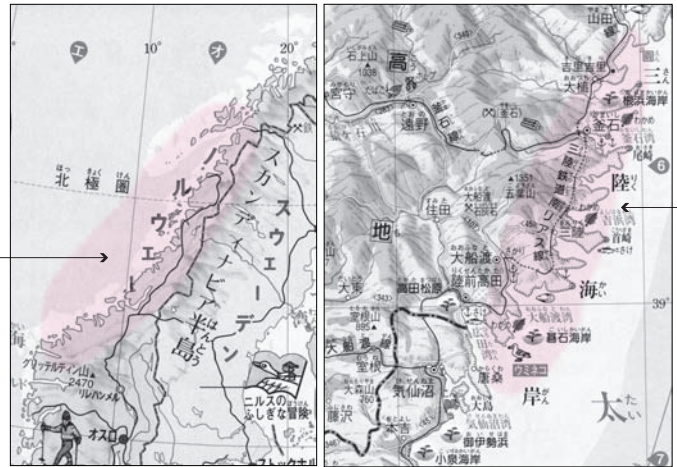
- ①河口の地形が沈下して、谷に海水が入ってできたものをリアス式海岸
- ②形はよく似ていても、氷河が地面をけずり取りそこに海水が入ってきたものはフィヨルド海岸とよぶことにしようと提案しました。

日本には、氷河はないから②はありません。そのかわり、①のリアス式海岸は各地にあります。

①の説明のように、リアス式海岸は地面の沈下によって、そこに海水が入ってできたと考えられてきました。

ところが、最近、これとは別の考え方をするのが普通になってきました。つまり、谷に海水が入ってきたのは、地面が下がったからとはかぎらないのではないかということです。

入江の入口も奥行きもほとんど同じ



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.39、50

地球の温暖化を考えると、氷河期が終わってから世界中が暖かくなり、海水面が上昇したのではないか。そのときに谷に海水が入ってリアス式海岸が多くできたらしい、ということです。

地面が沈下してできたリアス式海岸も確かにあるでしょう。しかし、海面上昇によってリアス式海岸ができたケースの方が一般的だと近ごろでは考えられているのです。

学説が変わってきたのです。これまでリアス式海岸と簡単に使ってきましたが、いろいろな内容があるのですね。

4. なにかのときに地図帳を開いてみる

国語辞典と同じように、常に机の上に地図帳を置き、社会科の学習だけでなくどんな学習のときも、必要に応じて地図帳を使うことです。使うことに慣れることです。そうすれば、地図帳に親しみも増し、面白さがわかってきます。地図帳は見る人の力に応じて、みえる内容が違います。力がつくほど豊かな内容がみえて、ますます面白くなり、使うことが多くなります。とにかく、地図帳でなんでも調べるくせをつけましょう。